

■■■第3章：ナチスはユダヤ人内部の違いを見分けていた

■■ハイドリヒのユダヤ人論

●興味深いことに、ナチスの幹部**ラインハルト・ハイドリヒ**は、SS保安部長時代の1935年に、親衛隊の機関紙『黒服将校団』に寄せた「見えざる敵」と題する論文で、ユダヤ人内部の違いを見分ける理論を展開し、次のように書いていた。

「ユダヤ人を、シオニストと同化主義者の集団の**2つのカテゴリー**に分けるべきである。シオニストは率直に人種主義の信念を表明し、パレスチナへの移民による独自のユダヤ人国家建設計画を推進している。……われわれの正しい願望と、優れた公式命令には、彼らと共通するものがある。」



ラインハルト・ハイドリヒSS大将

ヒムラーに次ぐSSナンバー2。1939年に「国家保安本部（RSHA）」長官に就任。

●また、ナチス・ドイツ内部のシオニスト組織の特権的地位については、ババリアのゲシュタポが1935年1月28日に、警察に対して出した回状がある。

「シオニスト組織のメンバーは、パレスチナへの移住を方針とする活動を行っているので、ドイツの**同化主義者**のメンバーに対するのと同様な厳密さで対処してはならない。」（『1930年代のナチ法の下におけるシオニストと非シオニスト』）

（「[ヘブライの館2](#)」）